

中国都市部における既婚女性の出産意識とその影響要因 －大連市での調査を中心に－

畢 舜 堯

1. はじめに

中国では、長期にわたって実施された「一人っ子政策」と社会経済発展によって、出生率が自然状態より低い水準にとどまり、高齢化問題、労働力不足問題や人口構造の問題がますます深刻になっている。これらの問題を解決するために、2011年11月から「一人っ子政策」が緩和されてきた。2015年第十八回「五中全会」（「中国共产党第18回中央委员会第五回会議」の略称）に「全面二孩」（すべての夫婦に二人目の子どもの出産を認める）政策が公布され、2016年から「全面二孩」の人口政策が実施された。しかし、社会変動や人々の意識の変化の影響で、人口政策の緩和には期待された結果が見られなかった。2014年に、『中国青年報』の調査（注¹）によると、「二人目の子ども」が出産できる調査対象者の中で、実際に出産を考えている人は24.9%にとどまっている。また、中国国家衛生と計画出産委員会副主任王安培氏は「全面二孩政策の実施と人口変化の計算研究」の中で2017年の人口出生数の中位数が2110万と予測し、実際の出生人口が想定より約400万人少なくなるとしている。

出産政策の調整とともに、中国の出生人口が徐々に増加しているが、なぜ政府の予想よりまだ下回っているのか。本稿では、農村部よりも「一人っ子」政策が厳しく実施された都市部の既婚女性に対象を絞り、かれらの出産意識がどのようなになっているのか、また彼らの出産意識に影響を及ぼす要因には何があるのか。それらを明らかにすることが本研究の目的とする。

2. 先行研究の総括と本研究の課題

近年、中国の人口年齢構成の変化とともに、出産適齢期の女性の数も減っていく傾向が見られる。2017年には、15～49歳の出産適齢期の女性の数は、2016年より400万人を減少した（国家统计局 2018）。それ以外に、女性の初婚年齢や第一子の出産年齢が徐々に高くなっていく動向があり、女性の出生意識も低下し続けている。2016年に靳永愛が中国六つの省12都市で行った調査によると、既婚女性の理想的な子供の数の平均値は1.75であり、持つつもりの子供数の平均値はそれより少なく1.62であった（靳永愛2016）。「全面二孩」政策の影響は相対的に弱い（趙翔蓉ら2016）。

女性の出生意識に影響を与える要因について、これまでの研究を概観すると、下記のようにまとめられる。

まず、「晩婚、晩産、少生、稀生、優生、優育」という観念がまだ強く影響されている（龔德華2009: 趙翔蓉ら2016）。

次に、「育児コストの高さ」のため、二人目を産みたくないと考えている女性が多く存在している（鄭真真2009, 韓雷2016, 靳永愛ら2016）。また、機会コストの投入、女性キャリアへの悪影響が女性の出産意欲を抑える原因の一つである（蔣萊2012, 張曉玲2016, 常紅岩2016）。

そのほか、親と一緒に住むかどうか、及び親の出産への期待なども既婚女性の出産に影響を与えている（宋健ら2016）。

それ以外に、第一子の性別も女性の出産意識に大きな影響を与えている。中国では「計画出産政策」が実施された後、出生性別比は女兒より男児のほうが高いという出生性比のアンバランス問題が長く存在していた。2014年に中国全国の出生性別比は115.9であり、国連が定めた102-107の標準よりとても高い（中国統計局2015）。先行研究では、「男児選好」の理由として挙げられたのは「経済的収益が多いから」である。「女兒選好」の理由として挙げられたのは「一人目の子供が男の子だから」である。第一子で女兒を産んだ人は、第二児を産む可能性が高いという推測がある（靳永愛ら2016）。また、出産女性の年齢、教育歴、職業などとの関わりがみられた（靳永愛ら2016, 王琪2017）。（先行研究を整理したものが文尾の付表に示されている。）

上述のように女性の出産意識に関して先行研究では様々な研究成果が蓄積されてきたが、近年人口が減少している中国東北地域を対象にする研究が稀である。中国東北地方都市部は昔から国営企業が多く、その社員は二人目の子供を産むと解雇されるという大きな代価を支払わなければならないため、他の地方より一人っ子の比率が高く、出生率も全国で最下位に位置する。2017年中国各省の人口粗出生率（Crude Birth Rate）に関する統計公報によると、大連市が所属している遼寧省は中国においても出生率が最も低く、6.49%しかない。「全面二孩」政策が実施された後の2016年において、遼寧省の既婚女性の理想的な子供数も全国の大規模調査の平均値1.75より少なく、1.62にとどまっている。

こうした中国東北地方都市部に先行研究の知見を応用すると、東北地方は全国の中でも出産意識が低いほうであることが考えられる。また、本稿における調査地の大連市は東北地域の窓口として、国際貿易が盛んでおり、経済発展が進んでいる地域である。経済発展とともに、人々の家族意識と個人の価値意識も急激に変化してきたという特徴があり、人口政策の転換はその地域の人々の出産意識に及ぼす影響が大きいと考えられる。

また、育児コストの影響は多くの研究で言及されたが、それは経済発展が進んでいる東北都市部の女性にどのような影響を与えているのか。そのほかに、前述した先行研究の中で、「第一子の性別が女子だから、二人目を出産したい」という考えに対して、「家を受け継ぐ」という伝統的な思想の影響だと解釈された。だが、その結論は妥当であろうか。時代の変化とともに、老後の扶養で子どもへの期待が薄れるにつれ、親にとって子どもの価値が変化しつつあると指摘されたが、現在の既婚女性たちの出産意欲と、子供の価値との関連性がまだ明らかになっていない。その点について、伝統思想の影響以外に、少なくとも、他の可能性があるかどうかを調査で確認する必要がある。

都市部の女性、特に東北都市部における出産主体の既婚女性はなぜ子供を多く産もうとしないか、その影響要因は何かあるのか。本稿では、アンケート調査から得られたデータをもとにして、「全面二孩」政策が実施された社会背景の下で、女性の出産意欲を抑える要因を考察する。そしてそれは、中国の出生率の上昇とそれによる人口問題の解決という実践的・政策的課題に対して

重要な意味があると考えられる。

3. 調査方法

本調査は中国遼寧省大連市に在住している20歳から49歳までの既婚女性を対象にして行った。調査は主に二つの方法で行った。知人を通しての調査票配布によるものと、ウェブに調査用のサイトを作り、そのURLを対象者に送り回答を得るものである。以上の二つの方法で回収した調査票はそれぞれ67票と23票であり、合計で90票、有効票は86票、有効回収率は95.6%である。調査期間は2017年12月～2018年1月までの約一ヶ月の間である。

都市部の既婚女性の出産意欲とその影響要因を考察するために、調査対象者の「出産の実態」、「出産意識」と「出産意識に影響を与える要因」という三つの項目を設定した。まず、既婚女性の実態を把握するために、「子供の数と性別」、「子供の面倒を見ている人はだれですか」と「一人目の子供を出産した時の年齢」などについて回答してもらった。「出産意識」について、「子供に関する意識」と「結婚・家庭・出産に関する意識」に分け、「子供に関する意識」について、「理想的な子どもの数」と「理想的な子どもの性別」について回答を求めた。また、「結婚・家庭・出産に関する意識」について、いくつかの質問を設定し、「まったく賛成」、「どちらかといえば賛成」、「どちらかといえば反対」、「まったく反対」という四つのカテゴリーから一つを選択するという形で回答を求めた。最後に、既婚女性の「出産意欲に影響を与える要因」について、「社会的要因」、「家族的・親族的要因」と「個人的要因」という三つの視点から回答してもらった。

調査対象者の属性は、表1にあるように、20代（34.9%）と30代（40.7%）が一番多く、40代は24.4%を占めている。また、調査対象者の学歴をみると、90%以上が大卒であり、サンプルは教育歴が高い回答者に偏っていることに注意する必要がある。

職業から見ると、民間企業で働いている人が最も多く、26.7%を占める。その次は国营企業（18.6%）である。きょうだい数については、きょうだい2人がいる人が最も多く、約4割を占める。次は一人っ子の人である（25.6%）。民族をみると、漢民族が最も多く、9割近く占めている。

表1 調査対象者の属性（N=86）

項目	分類	%	項目	分類	%
年齢	20-24歳	4.7	教育歴	小学校卒業	1.2
	25-29歳	30.2		中学校卒業	3.5
	30-34歳	17.4		高等学校卒業	4.7
	35-39歳	23.3		大学卒業以上	90.7
	40-44歳	17.4			
	45-49歳	7.0			
職業 (注 ²)	パート、アルバイト	9.3	きょう だい数	1人	25.6
	民間企業社員	26.7		2人	41.9
	国营企業社員	18.6		3人	20.9
	外国企業社員	4.7		4人以上	11.6
	自営業	4.7	民族	漢民族	89.5
	無職・家庭主婦	9.3		満 族	5.8
	教師	16.3		その他	4.7
	その他	10.5			

4. 調査の結果と考察

4.1 都市部既婚女性の出産意識

まず、理想的な子どもの数について、調査対象者の中で、子供を2人産みたいという願望が強い。年齢別から見ると、表2に示されたように、どの世代でも5割以上であり、そのうち、30代と40代の人のなかでは7割を占めており、第二児を産みたい願望がより強く表れている。それに対して20代の既婚女性は子供を1人だけ産みたい傾向が強い。

表2 年齢別に見る理想な子供数（N=86）

	理想的な子供数				合計 (%)
	0人	1人	2人	3人	
20-29歳	3.3	36.7	56.7	3.3	100 (30)
30-39歳	2.9	22.9	71.4	2.9	100 (35)
40-49歳	0	19.0	76.2	4.8	100 (21)

子供の性別選好について、図1に示したように、「子供を1人しか産まない場合は、男の子の方がいい」という問いに対して、「どちらかといえば反対」と「まったく反対」と答えた人を合わせると76.7%である。すなわち、調査対象者は子供を1人だけを産む場合に、男児選好意識が薄いと推測できる。「子供を二人だけ産む場合は、男女一人ずつのほうがいい」という質問に対して、「どちらかといえば賛成」と「まったく賛成」と答えた人を合わせると84.9%である。その結果から見ると、現在都市部の結婚女性は「児女双全」（男児と女児が一人ずつほしい）という考え方は、人々の意識に根強く存在していると推測できる。

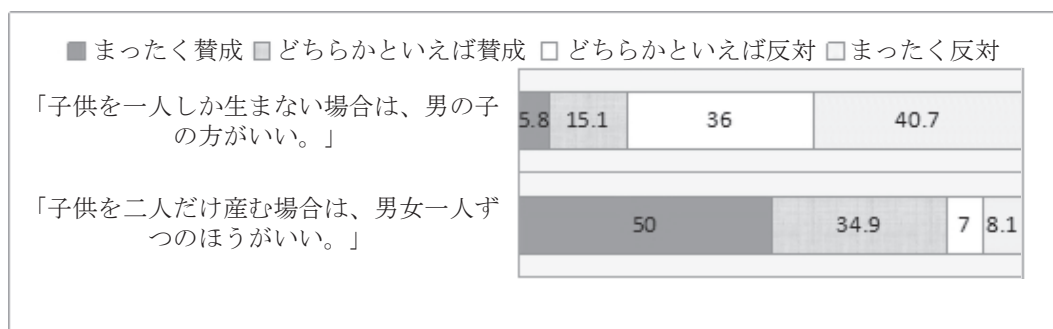


図1 子どもの性別選好（N=86 %）

続いて、「結婚、家庭、出産」に関する意識について、表3の③にあるように、約7割の調査対

象者は、「結婚したら子供を持つべきである」と考えている。その一方で、3割ぐらいの人は結婚したら必ず子供を持つべきだという考え方に反対の意見を示している。また、賛成側の意見が多いとしても、強く賛成する人はそれほど多くなく、3割程度であった。この設問は自分の場合だけを質問しているわけではなく、結婚について一般的な考え方を質問している。そのため、「結婚したら子供を持つべきである」に対して、反対側の意見が3割程度あることから、女性の3割は自分が結婚する際に子供は欲しくないと考えていると解釈すべきではなく、結婚しても子供を持たない人に対して寛容度を示している人の割合だと捉えるべきであろう。

表3「結婚、家庭、出産」に関する意識 (N=86)

質 問 内 容	パーセント			
	まったく反対	どちらかといえば反対	どちらかといえば賛成	まったく賛成
① 結婚したら、家庭のために自分の個性や生き方を半分犠牲にするのは当然だ	7.0	16.3	59.3	17.4
② 結婚後、夫は生活費の大半を負担すべきである	2.3	23.3	58.1	16.3
③ 結婚したら子供を持つべきである	10.5	19.8	41.9	27.9
④ 女性が最初の子供を産むなら 20 代のうちがいい	11.6	14.0	37.2	37.2
⑤ 生活条件が許せば、出来るだけ子供は多く欲しい	23.3	27.9	31.4	15.1

また、既婚女性の最初の子供を産む年齢について、74.4%の調査対象者は「女性が最初の子供を産むなら20代のうちがいい」と答えた。この結果から見ると、7割以上の女性は、初めての子供を産む理想的な年齢は20代だと考えていることが明らかである。産む子供の数と家庭の経済状況との関連を見ると、約半数の女性は「生活条件が許せば、出来るだけ子供が多く欲しい」という質問に反対の意見を示した。この結果から、生活の経済的条件以外に女性の出産意欲に大きな影響を与えている要素が存在することが推測できる。

4.2 都市部既婚女性の出産意識に影響を与える要因

1) 経済的要因の影響

表4に示したように、調査対象者は、理想的な子供数と実際に持つつもりの子供数の間にギャップが存在していることがうかがえた。表4に示されたように、理想的な子供数は2人と答えた女性は、実際に持つつもりの子供数は1人しかないのは約3割である。既婚女性にとって、理想の子供

数より持つつもりの子供の数が少ない理由はなんだろうか。

表4 「持つつもりの子供数（注³）」と「理想の子供数」のクロス表（N=86）

		持つつもりの子供数				合計（％）
		0人	1人	2人	3人	
理想の子供数	1人	0.0%	69.6%	30.4%	0.0%	100（23）
	2人	1.9%	31.5%	64.9%	1.9%	100（54）
	3人	0.0%	0.0%	33.3%	66.7%	100（3）

調査の結果を見ると、都市部既婚女性の出産意欲を抑える原因として、「育児の経済的な負担に耐えられない」を挙げた人が最も多く、52.2%を占めている。それは先行研究と一致している。すなわち、調査対象者の半分以上は子育ての経済的な負担が重いと感じたため、二人目の子どもの出産をあきらめたと考えられる（表4）。その他に、「家が狭いから」（13.0%）と「正規な職員ではない、収入が不安定」（2.2%）という経済的な原因で、出産意欲を抑えている。

また、表5で示したように、年齢別で見ると、調査対象者が若いほど、育児の経済的負担がよく感じられ、それに出産意欲に及ぼす影響が大きい。きょうだい数との関連を見ると、兄弟が1人や2人である女性は、兄弟がいない女性より育児の経済的負担を強く感じている。「家が狭い」と「正規な職員ではない、収入が不安定」に関して、サンプル数が少ないため、有意な関係が見られなかった。

表5 理想的な子供数の出産をあきらめた経済的な理由と年齢・きょうだい数のクロス表

項目	年齢			合計（％）	きょうだい数				合計（％）
	20代	30代	40代		0人	1人	2人	3人以上	
1. 育児の経済的な負担に耐えられない	52.2	30.4	17.4	100（23）	20.8	45.8	25.0	8.3	100.0（24）
2. 家が狭いから	40.0	60.0	0.0	100（5）	33.3	16.7	50.0	0.0	100.0（6）
3. 正規な職員ではない、収入が不安定	100.0	0.0	0.0	100（1）	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0（1）

2) 家族的・親族的な要因の影響

理想の子供数・持つつもりの子供数と配偶者の年齢と職業、また、家族との同居状態との関連を分析した結果は、表6に示された通りである。理想の子供数に関して、年齢が高いほど、子供を2人持ちたい意識が強くなる。40代が最も高く、73.9%の人が理想として子供を2人持ちたいと考えている。

また、持つつもりの子供数に関して、配偶者の年齢は40代の人たちが子供を2人持ちたいという希望が一番強く、57.9%を占めている。その次は30代（54.5%）と20代（44.0%）である。20代の人の中で、子供を2人より1人ほしいと考えている人が圧倒的に多く、48.0%を占めている。それと対照的に、30代と40代の人の中で、子供が1人より2人欲しいと考えている人が多い。すなわち、配偶者の年齢が上がるにつれ、二番目の子どもを産みたいという考えが強くなる傾向が見られた。

続いて、理想の子供数は配偶者の職業との関連について、子供を2人欲しいと考えている人の中で、「教師」が一番多く、その次は「自営業」と「国営企業社員」である。そのほかに、配偶者の職業と持つつもりの子供数との関連をみると、配偶者が「自営業」である場合、二人目の子どもが欲しいという願望が一番強く、88.9%を占めている。その次は「外国企業社員」と「パート・アルバイト」である場合であり、66.7%を占めている。つまり、配偶者の経済的条件がよく、比較的収入が安定している人たちが二人目の子どもを望んでいると言えるだろう。

なお、親たちと同居する女性は同居していない女性より理想の子供数は2人であると答えた人が多い。その中で、自分の親と同居する人の割合が多い。

また、持つつもりの子供数との関連をみると、自分の両親、あるいは配偶者の両親と同居している調査対象者のうち、子どもを二人以上産みたいと考えている人が一人産みたいと考えている人より多い。それは中国の都市部では女性はほとんど働いていて、子どもは三歳になるまでの保育施設が少ないため、幼稚園に入る前の子どもがほとんど親たちに面倒を見てもらっている現実と関わっていると考えられる。親と一緒に住むと、親から育児のサポートが受けられるため、子供を二人まで産みたいと考えている人が多くなると考えられる。

表6 配偶者の年齢・職業・一緒に住んでいる家族の有無と理想の子供数・持つつもりの子供の数との関連 (N=86)

		理想の子供数				総計 (%)	持つつもりの子供数				総計 (%)
		0人	1人	2人	3人		0人	1人	2人	3人	
年 齢	20代	4.0	36.0	56.0	4.0	100.0 (25)	4.0	48.0	44.0	4.0	100.0 (25)
	30代	3.0	24.2	66.7	6.0	100.0 (33)	0.0	39.4	54.5	6.1	100.0 (33)
	40代	0.0	26.1	73.9	0.0	100.0 (23)	0.0	42.1	57.9	0.0	100.0 (19)
職 業	パート、アルバイト	0.0	33.3	66.7	0.0	100.0 (3)	0.0	33.3	66.7	0.0	100.0 (3)
	民間企業社員	2.6	34.2	57.9	5.3	100.0 (38)	2.6	50.0	44.7	2.6	100.0 (38)
	国営企業社員	0.0	22.2	72.2	5.6	100.0 (18)	6.3	31.3	50.0	12.5	100.0 (16)
	外国企業社員	33.3	33.3	33.3	0.0	100.0 (3)	0.0	33.3	66.7	0.0	100.0 (3)
	自営業	0.0	22.2	77.8	0.0	100.0 (9)	0.0	11.1	88.9	0.0	100.0 (9)
	教師	0.0	20.0	80.0	0.0	100.0 (5)	0.0	60.0	40.0	0.0	100.0 (5)
一緒に住む人	自分の父親	0.0	15.8	73.7	10.5	100.0 (19)	5.3	36.8	42.1	15.8	100.0 (19)
	自分の母親	0.0	16.7	75.0	8.3	100.0 (24)	4.2	37.5	45.8	12.5	100.0 (24)
	配偶者の父親	0.0	12.5	68.8	18.8	100.0 (16)	6.3	31.3	50.0	12.5	100.0 (16)
	配偶者の母親	0.0	16.7	66.7	16.7	100.0 (18)	5.6	33.3	50.0	11.1	100.0 (18)

3) 個人的な要因の影響

今回の調査の内容に、既婚女性対象者の出産意識に影響を与える要因を考察するために、「持つつもりの子供の数が理想的な子どもの数より少ない原因はなんですか」という問題を設定した。それについて、「年齢や健康上の理由」と回答した人は32.6%を占めている。すなわち、3割ぐらいの女性は自分の年齢と健康状態を考慮した上で、高齢出産の危険性を避けたいために、子供を多く産みたくないと解釈される。

次に、親にとって子どもの価値についての分布を見てみよう。表6にあるように、調査対象者の中で、子供を産みたい理由として最も多く挙げたのは「子供がいると生活がもっと豊かに楽しいと思うから」であり、5割を占めている。二番目に多いのは「結婚して子どもを持つのは自然なことだから」と「子どもが育つとともに自分も成長するから」と考えている人で、46.8%を占めている。それに対して、「子どもが老後の支えになるから」を回答したのが22.1%を占めている。中国において、昔から伝統的に「子供を産むのは家を継承するためだ」や「老後のために、子供を育てる」などの实际的、もしくは功利的な目的意識が高かったが、経済発展がグローバル化してきた現在、人々の伝統的な意識が変わってきたことが今回の調査によって明らかになった。

表7 子供の価値に関する意識調査の結果（n=86）（注：複数選択可）

内 容	%
1. 結婚して子どもを持つのは自然なことだから	46.8
2. 子どもが育つとともに自分も成長するから	46.8
3. 好きな人の子どもをもちたいから	11.7
4. 子供がいると生活がもっと豊かに楽しいと思うから	50.6
5. 子どもが老後の支えになるから	22.1
6. 子どもが夫婦関係を安定させるから	28.6
7. 親など周囲が望むから	15.6

5. おわりに

上記の考察を通して、中国都市部の既婚女性の出産意識の現状とその影響要因が下記のようにまとめる。

まず、中国都市部において、「結婚したら子供を産むのが自然なことだ」と考えている既婚女性が7割を占める。「全面二孩」政策が実施された後、中国都市部の女性の第二児出産意欲が強くなった傾向がみられる。女性の初産年齢を見ると、9割近くの女性は20代後半から30代前半の間に第一児を産んだことが分かった。理想的な子供の数について、7割近くの女性は二人を産みたいと考えている。年齢が上がるにつれ、二人目の子供を希望する傾向が強くなる。調査対象者の中で、年齢が高い女性たちはきょうだいがいるから、そういった希望が強い可能性があると考えられる。子供の性別に関して、男児選好意識が薄くなり、多くの女性は第一児に女の子を望んでいる。

また、女性が家庭内の役割を重視するだけでなく、自分の社会的価値の実現も重視する傾向が強い。女性は結婚すると家庭のために自分の生活を半分犠牲にするのが当然だと思う人が多いが、その一方で、家庭内の経済的分担に関して、男性が家庭の生活費の大幅を負担すべきと考えている人が少なくない。

既婚女性の出産意識に影響を与える要因として、まず挙げられたのは「育児コストの高騰」である。現在の中国において、親たちは子供への期待が大きいため、多くの家庭は子供の教育にか

かる費用が家族収入の大半にのぼる。子供を二人育てるのが一般的な家庭にとって、大きな負担になっているのが現実である。

二番目の原因は配偶者の年齢、職業、また家族との同居状況などの家族的な影響である。配偶者の年齢が高いほど、女性が2人目の子供を産みたいという意識が強い。また、配偶者の職業が安定かつ収入が高いほど、親族が育児に援助してくれる女性のほうが第二子の出産を考える人が多い。すなわち、中国では幼児の面倒には親が育児資源として大きな役割を果たしている。

そのほかに、個人の属性（年齢）と親にとっての子供の価値の変遷の影響も挙げられる。現在の中国では、日本と同じように晩婚化が進んでいる。中国は土が広くて、民族も多いため、結婚年齢に関して、地域的な差が存在しているが、中国人の初婚年齢は大体26歳～30歳である。結婚年齢が高くなるとともに、出産年齢が高くなると予測できる。既婚女性の中で高齢出産の危険性を避ける傾向がある。

また、近代以前は、子供は「経済的な価値」とみなされてきたが、現在では、情緒的な価値が重視されるようになった。人々の「老後の扶養」のために子供を産むという意識が薄くなりつつ、子供を持つことによって、自分が精神的に豊かになるために、子供を産む人が増えている。つまり、親にとっての子供の価値変化が既婚女性の出産意識に大きな影響を与えていると考えられる。

今回の調査地域は中国北方に位置している大連市である。調査地域が限られ、調査対象者の中で、高学歴の女性が多いため、本研究から得られた結論が偏っている可能性がある。今後広範囲での調査が必要と考えられる。また、今回の調査対象者は出産の主体である女性に限られているため、配偶者の男性の意識がどのように女性の出産意識に影響を与えているのかをまだ研究によって明らかにされていない。そのほかに、女性の出産意識を向上させるために、現在の対策を検討した上で、より良い効果的な対策を作るために、既婚女性のニーズを明らかにする必要がある。最後に、「全面二孩」という出産政策が推進された期間がまだ短く、この間に第二子を産んだ人が増えてきているものの、出生率が上がる動向がいつまで続くかは今後の課題になる。

[注]

1) 2014年に、《中国青年報》の社会調査センターは、「民意中国网」と「益派咨询网」というネットワークを通じて、全国におけるランダム・サンプリングの方法で2052人を対象にして調査を行った。

2) 対象者の職業をパート、アルバイト・民間企業社員・国営企業社員・外国企業社員・自営業・教師という6つのカテゴリーに分けるのは、企業の性質によって、社員の出産に関する会社の制度や福祉、産休時の給料のレベルなどが異なるかもしれない。それより対象者女性の出産意識にも影響を及ぼすという考慮から細かく分類した。教師という職業は前のカテゴリーに入れにくいので、特別に一つのカテゴリーとして取り上げた。

3) 「持つつもりの子供数」と「理想の子供数」の区別:持つつもりの子供数は現実の条件を考え、計画的に産むつもりの子供数のことである。それに対して、理想的な子供数は現実な制限などにかかわらず、理想な状態の下で持ちたい子供数のこと。

[参考文献]

- 常紅岩, 2016, 「“二孩” 重在提高生育意愿」『北京觀察』 3 : 33-35.
- 龔德华· 甘霖· 劉惠芳· 曾小敏, 2009, 「生育意愿影响因素分析」『湖南医科大学学报』 11 (1) : 92-94.
- 韓雷· 田龙鹏, 2016, 「全面二孩_的生育意愿与生育行为—基于2014年湘潭市調研数据的分析」『湘潭大学学报』 1 : 51-56.
- 石原邦雄· 青柳涼子· 田渕六郎編, 2013, 『現代中国家族の多面性』 弘文堂.
- 蒋 莱, 2012, 「领导力发展视角下的职业女性工作生活平衡策略研究」『妇女研究論丛』 2 (110) : 96-102.
- 李思成· 陶寄· 何鸾英· 何雨莲· 陳怡依· 張强, 2017, 「全面二孩政策下成都市育龄妇女二孩生育意愿及影响因素研究」『現代预防医学』 20 : 3706-3709.
- 靳永愛· 宋健· 陳衛, 2016, 「全面二孩政策背景下中国城市女性的生育偏好与生育計劃」『人口研究』 6 : 22-37.
- 宋健· 陳芳, 2010 「城市青年生育意愿与行为的背离及其影响因素—来自4个城市的調查」『中国人口科学』 5 : 103-112.
- 若林敬子, 1989, 『中国の人口問題』 東京出版社.
- 王琪· 崔云曦· 林子力· 杨帆· 張咪, 2017, 「二孩生育影响因素分析」『魅力中国』 19 : 34-36.
- 趙翔蓉· 孫肖雨· 李銀宝· 王 双· 王 賀· 燕易菲, 2016, 「全面二孩政策对河北省城市80后生育意愿的影响研究」『青春歲月』 12 : 476-477.
- 張晓玲· 戈祥, 2016, 「“全面两孩” 政策下居民生育意愿調查分析报告」『四川职业技術学院学报』 3 : 21-25.
- 鄭真真, 200 9, 「低生育水平下的生育成本收益研究——来自江苏省的調查」, 『中国人口科学』 2 : 93-102, 112.
- 中国統計局, 2018, 「2018年国民經濟と社会發展統計公報」.

付表：先行研究における出産意欲の影響要因及び調査地域

	伝統的観念 (男児選好等)	「一人子政策」の影響	学歴	育児コスト	家庭収入	親と同居	女性キャリアへの影響	(調査地)
趙翔蓉 ら2016	+	－	－	－	+			河北省
鄭真真 2009				－				江蘇省
李思成 ら2017	+		－					四川省成都市
靳永愛 ら2016	+			－	+	+	－	広東省広州市等，四川省成都市等，湖北省武漢市等，山東省済南市等，浙江省杭州市等，遼寧省瀋陽市等
龔德华 ら2009	+	－		－				
韓雷 2016				－			－	湖南省湘潭市
宋健 ら2010						+		北京市，河北省保定市，湖北省黄石市，陝西省西安市

蔣 萊 2012							—	
張 曉 玲 ら 2016							—	(ネット 調 査 の た め 不 特 定)
常 紅 岩 2016							—	
王 琪 等 2017	+		—		+			

A study on fertility desire of urban married Chinese women and its influence factors – By the survey in Dalian –

Bi Shunyao

Abstract

Along with adjustment of birthing policies, the number of births in China is gradually increasing, but it is still below the government's expectation by the data until 2017. The survey has been conducted to clarify how birth consciousness of married women in urban areas has changed due to the new childbirth policy and what influence factors there are.

After the "two-child policy" has been carried out, women's willingness of giving birth to the second child became stronger. Regarding gender preferences, the consciousness about bear boys has been reduced, and more women tend to bear a girl as their first child. This study reveals that one of the important factors to repress women's fertility willingness is "soaring childcare costs." It is a reality that it is a heavy burden for general families to raise two children. Also, the results show one factor influencing women's willingness about the gender of second baby's birth is not the traditional "boys preference", but the childcare cost. Besides that, in China, grandparents play an important role, they are regarded as parenting resources for taking care of children. And having children would bring them physical and mental burdens and obstacles to their careers is also a reason why women are not tend to have a lot of children. Last but not least, women would like to give birth is because that it becomes mentally enriched for themselves by having children, and the consciousness of "Retirement support" becomes less popular. In other words, parents' change in value of children makes a great influence on married female's fertility desire.